後期臨床研修カリキュラム【整形外科】

十三市民病院

【特徴】

当院の整形外科では大きな2本柱である脊椎外科と関節外科を中心に専門的治療を行っています。脊椎分野では頚髄症、腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症等に対する保存的治療のほか顕微鏡視下の低侵襲手術や脊椎固定術を行っています。関節分野では変形性関節症や関節リウマチで日常生活の障害が高度であれば人工関節置換術を行い特に膝関節ではMIS（低侵襲）手術を導入しています。これら2分野に対しては近隣医療機関からの紹介が多く良好な成績を収めています。

外傷の治療にも積極的に取り組んでおり高齢者の大腿骨頚部骨折は早期離床を目的に手術療法を行っていますが、連携パスを利用してリハビリ病院と協力して治療にあたっています。

代表的な手術や検査に関してはクリニカルパスを作成し運用しています。フットワークの良い迅速でやさしく安全な医療を提供できるよう努めています。

【研修目標】

１．一般目標

すべての臨床医に求められる基本的診察に必要な知識、技能、態度を修得する。また整形外科を受診する患者様に安全で信頼される医療を提供するため、整形外科診療に必要な知識、技術を習得するとともに、包括的で全人的な診療能力を修得する。

２．行動目標

(1) 全般

① チーム医療を理解し他の医療従事者と良好なコミュニケーションをとることができる。
② 整形外科診療に必要な骨、関節、神経、腱などの基礎的知識に習熟し、臨床に応用できる。
③ 整形外科診療に必要な検査、処置、麻酔手技を習熟し、適切に実施できる。
④ 標準的な整形外科の手術を適切に実施できる。
⑤ 患者にとって有効な整形外科リハビリテーションを指示することができる。
⑥ 患者および患者家族の社会的､心理的背景を考慮した適切な説明と指導を行うことができる。
⑦ 医療保険、福祉制度、介護保険等の医療システムを理解し適応できる。
⑧ 専門医資格の認定に必要とされる学会発表、論文作成などの要件を満たす。

(2) 外傷、骨折に対応できる基本的診察能力を修得する。

① 骨折に伴う全身的、局所的症状を述べることができる。
② 神経、血管、筋腱損傷の症状を述べることができる。
③ 神経、血管、筋腱損傷を判断できる。
④ 骨関節感染症の急性期の症状を述べることができる。

(3) 慢性疾患：適正な診断を行うため必要な運動器疾患の重要性と特殊性を理解する。

① 変性疾患を理解してその自然経過と病態を理解できる。
② 骨、軟骨、神経のＸ線像、MRI 像の解釈ができる。
③ 骨、関節、脊椎疾患の初期治療方針を立てることができる。
④ 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれと病態を理解できる。
⑤ 神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで実施できる。
⑥ 脊髄腔造影、椎間板造影検査を指導医のもとで実施できる。
⑦ 理学療法が処方できる。
⑧ 後療法の重要性を理解し適切に実施できる。
⑨ 杖やコルセットなど装具処方が適切にできる。
⑩ 社会的背景、心理的背景に配慮して病歴聴取や説明ができる。
⑪ クリニカルパスを理解し適切に運用できる。

(4) 基本手技：正確な診断と安全な治療を実践するため基本手技を修得する。
① 運動器疾患に必要な身体計測ができる。
② 骨、関節の所見が取れ評価できる。
③ 神経学的所見が取れ評価できる。
④ 適切なX線撮影の指示ができる。
⑤ 一般的な診断と初期治療ができる。
⑥ 理学療法の指示ができる。
⑦ 清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺、小手術、牽引ができる。
⑧ ギプスの必要性を理解し上級医とギプスを巻くことができる。
⑨ 手術の必要性、概要、侵襲度の説明ができる。
(5) 医療記録：運動器疾患に対する理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する。
① 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。
② 運動器疾患の身体所見が記載できる。
③ 検査結果の記載ができる。
④ 症状、経過の記載ができる。
⑤ リハビリや装具の処方、記録ができる。
⑥ 検査、治療のインフォームドコンセントの内容を記載できる。
⑦ 紹介状、依頼状を正確に書くことができる。
⑧ 診断書の種類と内容が理解できる。

【方略】
(1) 外来、入院患者を主治医として担当し、検査、処置、診断、治療を行う。
(2) 術者または手術助手として手術を担当する。
(3) 症例検討会で症例を提示し討議を行う。
(4) 学会発表、論文作成を行う。

【評価】
上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【研修プログラム】
(1) レジデント1年目
① 運動器疾患の理解に必要な解剖学、病態生理学を修得する。
② 正確な診断を行うための基本的手技を習得する。（関節可動域測定、徒手筋力測定、神経学所見の取り方、単純レントゲン像・MRI・CT の読影など）
③ 入院整形外科患者の初期対応ができる。（救急患者における整形外科的外傷の初期対応、介達・直達牽引の実践、ギプス管理など）
④ 手術を助手として経験する。
(2) レジデント2年目
① 基礎的知識を充実させる。（骨折治療法および各種内固定材料の理解、慢性疾患の病期分類と対応法の理解など）
② 補助診断法の理解と実践。（脊髄造影、関節造影など）
③ 外来診療技術の向上、外来処置の実践（手術適応や検査入院の適応の有無の判断、硬膜外ブロック、選択的神経根ブロックなど）
④ 手術を第一助手として経験する。
(3) レジデント3年目

① 各専門領域の基礎的知識、検査、基本的手技を理解する。（小児疾患の診察法と専門病院への転送基準の把握、スポーツ外傷への初期対応、関節リウマチの理解と治療法の実践など）
② 手術を執刀医として経験する（大腿骨頚部骨折に対する人工骨頭挿入術と観血的骨接合術、長管骨骨折の髄内釘手術、アキレス腱断裂に対する腱縫合術など）

(4) シニアレジデント1年目
① 症例報告または研究発表を１回以上行う。
② 専門性に応じて以下の手術の経験を積む。
関節外科：指導医のもと人工膝関節置換術、膝関節鏡視下半月切除などの術者を経験。
脊椎外科：指導医のもと腰椎髄核摘出術、腰椎後方除圧術などの術者を経験。
外傷：鎖骨骨折、前腕骨折、膝周辺骨折、足関節骨折に対する観血的骨接合術などの執刀。

(5) シニアレジデント2年目
① 整形外科専門医認定試験を受験するとともに症例報告または研究発表を１回以上行う。
② 専門性に応じてシニアレジデント１年目に加えて以下の手術の経験を積む。
関節外科：指導医のもと人工股関節置換術、膝関節靭帯再建手術などの術者を経験。
脊椎外科：指導医のもと頚椎後方除圧術、腰椎後方除圧固定術などの術者を経験。
外傷：新鮮開放性骨折、上腕骨顆上骨折を含む小児の肘関節周囲骨折、上腕骨近位部骨折、肩鎖関節脱臼、手関節部骨折、手の腱損傷などの執刀。

(6) シニアレジデント3年目
① 症例報告または研究発表を１回以上行うとともに論文を１編以上投稿する。
② 専門性に応じてシニアレジデント２年目に加えて以下の手術の経験を積む。
関節外科：人工膝関節および人工股関節置換術を指導医のアドバイスなしにやり遂げる。
脊椎外科：髄核摘出術、腰椎後方除圧術を指導医のアドバイスなしにやり遂げる。
外傷：関節内骨折や粉砕骨折、脊髄損傷、骨盤骨折などより高度な技術を要求される外傷の執刀。

【見学等問い合わせ先】

整形外科部長　　田中　亨